



見つけよう、
親子で新聞を読む楽しさ。

新聞の中には子どもの知らない世界が広がっています。

「生きた教材」である新聞に触れることで、
子どもは多くの発見をし、物事を深く考えるようになります。

一方で、新聞は子どもにとって敷居の高い読み物でもあります。
やはり最初のうちは、親の手助けが必要なようです。

どうすれば、子どもは新聞の世界に自然に入っていけるのでしょうか？
どうすれば、親は子どもを無理なく新聞の世界に導けるのでしょうか？
目指したのは、親子で読みたくなるような新聞です。



そのキッカケを
つくるのが

毎日どこかに遊びに行っては、家に帰ってこないネコがいます。



朝日新聞の1面には、毎日こんな掲示が出ています。



さあ、子どもを誘って、ネコを探しに行きましょう！

子どもと一緒に新聞をめくっていくと・・・ネコを発見！

今日は7面の上の方にいました。



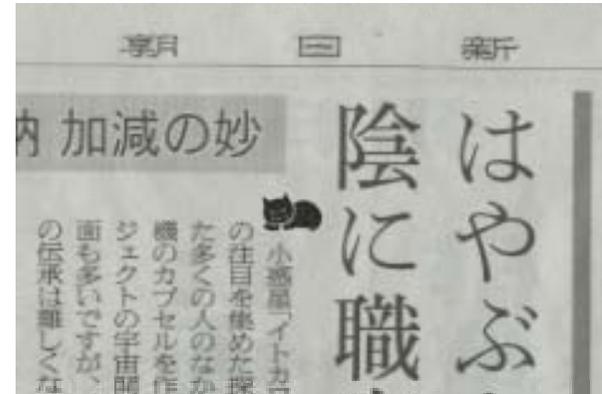
最初のうちは、ネコが見つかったところで、ゲーム終了です。

子どもが記事に興味を示さなくとも落胆しないこと。

先を急がず、まずは子どもに新聞を開く習慣を身につけさせましょう。

子どもがネコ探しを面白がりはじめたら、
今度は子どもひとりでネコを探させてみましょう。

そして、子どもがネコを見つけたら、どこにいたのか聞いてみましょう。



子どもは新聞を持ってきて「ここ！」と答えるかもしれません。

「7面の上の方！」と答えるかもしれません。

「はやぶさの記事のところ！」と答えるかもしれません。

ネコの居場所を説明する中で、子どもが見出しに言及しはじめたら、簡単な質問をしてみましょう。

(できれば、子どもが新聞を見る前に予め記事をチェックしておきましょう)

はやぶさって、なんて星から
帰ってきたんだっけ？

…月？…木星？
なんだっけ？

やりとりの中で、子どもに疑問が浮かんだら、「新聞で調べてみよう」と誘ってみましょう。

じゃあ、調べてみよっか？
ネコがいたとこ、開いてみて。

わかった、イトカワ！



毎日ネコを探しながら、
子どもは少しずつ新聞に慣れ親しんでいくでしょう。



最初はネコを探すだけだったのが、
やがて見出しを読むようになり、
いずれ記事の最初の数行を読むようになるでしょう。

見つけたのは迷子のネコ。
そして、親子で新聞を読む楽しさ。

ちなみに、1面の掲示に記された連絡先にアクセスすると、こんな画面が現れます。
子どもに対しては、面や見出しに対する質問を通して新聞への興味喚起の役割を、
親に対しては、このネコ探しの真意を伝えるPRの役割を果たします。



アクセス

探してくれて、ありがとう。



ネコは、どこにいましたか？
近くにどんな見出しや写真がありましたか？
それはどんな内容の記事でしたか？

ネコがいるのは、その日のたくさんの記事の中で、
子どもに読んでほしい、子どもが読むのにふさわしいと、
朝日新聞が考える記事でもあります。

さあ、今日も新聞をめくってネコを探しに行きませんか？

文化13面
歌壇俳壇日面
教育24面

生活27面
地域29面
TV・5
速報は
動画
WWW.

ネコを探しています。



見かけた方は、
www.asahi.com/nekoまで。